

小山鐵夫. 1980. 日本のウキヤガラ属. 植物分類地理  
31: 139-148.

Shimizu, T. 1967. An observation on *Scirpus  
iseensis*, sp. nov. Journal of Japanese  
Botany 42 (6): 175-181.

徳島県博物館編. 1987. 徳島県博物館所蔵資料目録第16  
号植物標本目録—顕花植物・シダ植物編. 徳島  
県博物館, 徳島.

山中二男. 1978. 高知の植生と植物相. 林野弘済会高知  
支部, 高知.

○鷺谷いづみ・矢原徹一『保全生態学入門—遺伝子から  
景観まで』(文—総合出版, 1996年3月, 270p, 3,090  
円)

種の絶滅危惧問題に代表される生物多様性の危機が広  
く認識されるようになる中で, 保全生物学の重要性が高  
まっている. それに呼応して欧米では保全生物学の教科  
書が, 次々と出版され, 関連するタイトルも含めれば数  
十冊は下らない状況である. しかし, 日本には, 今まで  
教科書がなかった. それだけに本書は待望の出版といえ  
る.

本書は, 単に環境や種の危機的状況を紹介して保全の  
必要性を訴えるだけにとどまっていない. 「生物多様性  
の保全」という明確な実際的目標を持ちながら, むしろ,  
その基礎となる生物界の成り立ちを学問的に, 筆者等の  
言葉によると「適応進化」と「生物間相互作用」の視点  
を基本にして, まさに遺伝子から景観にいたる生物多様  
性のさまざまな階層について概説している. しかし, 教  
科書にありがちな知識の羅列や無味乾燥な記述はどこに  
もない. 筆者等の明確な考えに裏付けられ, 問題の背景  
から今後の方向までが興味深く説き進められる. 保全生  
物学にける筆者等の熱い思いが伝わってくる好著であ  
る. 保全を考える者の座右の書のひとつと言えよう.

内容は次のとおり.

1. 保全生態学とは何か
2. 生物多様性とその危機
3. 種の機能とその指標性
4. 生物多様性の進化的根拠
5. 生物多様性の生態的根拠
6. 種内の遺伝的変異とメタ個体群の動態
7. 生物多様性を脅かす景観の変容
8. 生物多様性の管理・回復

(角野康郎)

○保全生態学研究会

保全生態学の発展とわが国における生物多様性の保全  
そのものに寄与することをめざして学術・情報普及活動  
を行なうことを目的に, 標記の研究会が発足しました.  
保全の問題に関心のある方ならばどなたでも参加できま  
す. 研究会は「保全生態学研究」(年2~3回発行予定)  
とともに「保全生態だれが誰: 保全に役立つ情報付きの  
名簿」を定期的に刊行します.

会費 個人会員 5,500円 (学生 3,000円)

入会申込, お問い合わせは

〒305 つくば市天王台1-1-1

筑波大学生物科学系 鷺谷いづみ研究室内

保全生態学研究会事務局

e-mail junjun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

TEL 0298-53-4531 (荒木, 西廣, 松村)

FAX 0298-53-6614 (鷺谷いづみ宛)